

令和4年度 鯖江高等学校(全日制) 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題(令和4年度)	改善策・向上策(令和5年度)
1 教育課程 学習指導 研修	<p>具体的取組</p> <p>a 授業、家庭学習の充実に努め、一人ひとりの学力を高める。 目標:授業の理解度、分かりやすい授業の指数80%以上</p> <p>b 学習手帳「みのり」を活用し、家庭学習の習慣を定着させる。 目標:家庭学習の定着に関する指数70%以上</p> <p>c ICTを活用する授業改善に努め、授業力を高める。 目標:ICT活用に関する目標指数70%以上</p>	<p>・授業理解と家庭学習の定着について 生徒の授業内容の理解度は年々高くなっており、どの学年も90%前後である。しかし、保護者の認識では昨年より下がっている。特に2、3年生は83～85%であるのに対して、1年生は71%で、目標に届いていない。 平日に1時間以上の家庭学習を行っているという回答しているのは、1年生45.3%、2年生38.2%、3年生76.5%で、2年生が減る傾向にある。また、生徒と保護者ではほぼ一致している。</p> <p>・授業改善について プロジェクターを使い、資料集のグラフの解説、実験動画、題材のイメージを膨らませるための写真や動画、生徒のノート、グループ活動の結果発表、公式や文法を常に表示するなど、各教科・教員による積極的な利用が飛躍的に伸びてきている。ICT利用においての教材の共有化を図る必要がある。</p>	<p>・授業理解と家庭学習の定着について 2、3年生は目標の80%を超えたが、1年生はやや下回った。授業が理解できないと答えた生徒に対しては、個別指導や学習会を行うことで、理解度をupさせたい。 家庭学習の定着は、まだまだ目標の数字に届いていない。個人面談や家庭との連絡を密にするなどして、家庭での過ごし方の改善に努めたい。また、課題の内容を吟味して取り組みやすくするよう工夫したい。</p> <p>・授業改善について ICT機器の利用は年々上がっている。来年度についても、授業力向上を目指し、毎学期に授業公開週間(2週間)を実施する。また、各教科の中で授業研究を進める。ICTについて、授業公開週間等を通じて、他の教科や教員のICT活用方法を学び、方法の幅を広げ授業改善に役立てていく。</p>
2 生徒指導	<p>具体的取組</p> <p>a 正しい服装容儀を身につけさせるため、定期的に容儀検査、登下校指導を実施し、個別指導を徹底する。 目標:正しい服装容儀に関する目標指数95%以上</p> <p>具体的取組</p> <p>b 保護者との連携(保護者懇談、家庭訪問)を通して、遅刻者数を減らす。 目標:遅刻に関する目標指数95%以上</p> <p>具体的取組</p> <p>c 生徒間の支え合いを通じて、いじめ・問題行動の防止に取り組む。 目標:啓発、指導に関する目標指数90%以上 目標:思いやり・助け合いに関する目標指数80%以上</p>	<p>生活指導部の取り組みの重点目標として例年同様、「正しい服装容儀を身につける」とした。保護者に対するアンケート結果では、「服装容儀を守っている(A+B)」が、97.7%(昨年度97.1%)とわずかに増加しており、目標指数の95%以上を達成した。また、生徒が「風紀検査の再検査で不合格になった回数」が年間1回以内(A+B)は、96.0%(昨年度98.3%)と減少しているが、正しい服装容儀で生活を送るという習慣は身につけてきている。生徒会執行部員と風紀委員による、ミニ風紀検査も生徒自身の意識を高める効果があり、正しい服装容儀で学校生活を過ごしている生徒がほとんどである。</p> <p>アンケートの結果で、保護者は「登校時間を守っている(A+B)」が、94.2%(昨年度96.0%)と目標指数の95%を下回った。生徒は「不注意による遅刻の回数」が年間A 0回が82.1%、B 1回～3回が13.8%と、3回以下(A+B)が95.1%(昨年度98.1%)で、目標指数の95%を上回った。ただし、今年度と昨年度を比較すると、全校生徒数が増えたことで、割合的には同様の高い割合ではあるが、遅刻者の延べ人数が増えていることに対しては、注意喚起が必要である。</p> <p>「思いやりや助け合いの心を持って人に接しているか」の質問に対して、「できている(A+B)」は、保護者が95.3%、生徒が96.5%と、目標指数の80.0%は大きく上回っているが、「大変よくできている(A)」の回答は、保護者が37.3%、生徒が49.6%だけで、「おおむねできている(B)」の回答と値の差が小さいのはこの観点だけであることは、注意しておきたい。 「みのり」を通して生徒からの声を聞いたり、いじめアンケートの実施結果により、いじめがあった場合は、担任、学年主任、教育相談担当者等と生活指導部が、連携を取って対応し、大きないじめに発展することを防ぐことができた。</p>	<p>例年どおり服装容儀検査は年間8回を計画している。容儀面ではよい傾向が継続している。教員に対するアンケート「服装・髪型が気になる生徒に対して」では、「その都度積極的に指導した、まあまあ指導した(A+B)」という回答が、90.7%(昨年度91.5%)と減少しているが、これは逆に、校内であまり服装の乱れのある生徒を見かけなくなっている結果、指導の機会が減ったせいではないかと考えている。今後も全教職員体制での指導を継続させる。来年度は、風紀検査不合格回数が多い一部生徒に対して、生活指導部・担任・保護者との密な連携を図り指導することで、正しい服装容儀での学校生活を徹底させる。また、ミニ風紀検査も十分な効果がみられたので、引き続き実施していく。</p> <p>遅刻者の延べ人数を減らすために、全教職員に割り当てる登校指導(朝当番)を継続し、いろいろな先生方から生徒に対して声かけを積極的に繰り返す。また、生徒会執行部の生徒と協力し、予鈴前登校の運動(あいさつ運動)を展開させる。あわせて、保護者との連携(保護者懇談、家庭訪問)をとおして、遅刻者を減らす。</p> <p>教員に対するアンケートにおいて「生徒に思いやりや助け合いの心を持って人に接するなどの指導や積極的な生徒の声かけを行った(A+B)」は、100.0%(昨年度93.6%)で、教員一人一人の意識を高めている。 いじめ・不登校・問題行動について、今後も発生した際には、マニュアルに従い、関係する教員間の連携、保護者との連携を密にとって迅速に対応し、問題点を追及して防止できるよう取り組んでいく。</p>
3 進路指導	<p>具体的取組</p> <p>a 進路学習などを通して、生徒の実態に即した進路情報を提供し、適性にあった進路目標の早期設定に努める。 目標:①進路情報の満足度に関する目標指数90%以上 ②進路目標の設定など進路意識に関する目標指数90%以上</p> <p>b 就職・進学試験に向けて全校体制で実施している面接指導・作文指導を充実させる。 目標:面接・作文指導に関する目標指数が95%以上</p>	<p>アンケートの結果、「必要な進路情報入手できた」との回答がA+Bで生徒が85.0%、保護者が95.3%で、生徒の数値が目標を下回った。ただ3年生の生徒に限れば数値は98%となっており、1、2年の数値を上げることが課題と言える。一方保護者に関しては全学年とも90%を超えており、満足度は極めて高くなっている。昨年同様学年会や進路指導部が進路情報誌の配付や外部講師を招いて講演を行った。オンラインによる進路ガイダンスや保護者対象分野別説明会などを実施した結果と思われる。</p> <p>「進路目標の設定」に関する調査はA+Bで生徒が86.4%、保護者が92.3%でここでも保護者が高い割合を占めている。生徒については、学年ごとに意識差が現れ、1年生81.9%、2年生83.3%、3年生94.6%となっている。こども1、2年の数値をどのように上げていくかが課題と言える。とはいえ、1、2年生とも80%は超えており、全体的に見れば、進路指導部・担任を中心に、ロングホームや学年集会などを利用して進路意識の向上に努めた結果が現れたと言える。</p> <p>この項目における評価は面接・作文指導が「大いに役立っている」「概ね役立っている(行っている)」の合計が生徒が96%、保護者が95.2%と大変高く評価している。今年度も、就職希望者には2学年の3学期から少しずつ指導を行い、3年になってからは求人票の見方や履歴書の書き方、面接指導などを就職コーディネーターにも協力してもらい指導を行った。また警察、消防、自衛隊への就職を希望する生徒に対しては3年夏に校内説明会を実施した。進学希望者には担任や学年会による面接・小論文の指導を高校総体後の3年6月から実施し、9月からは全教員が数名の生徒を担当し、個別の面接・小論文指導を行った。 全校体制での指導の形態は例年確立されており、特にベテラン教員と若手教員のペアや異なる教科でグループを作って行う模擬面接は大きな成果を上げている。ほとんどの教員が「積極的に指導した・まあまあ指導した」と答えており、積極的な姿勢で取り組めた。今後もこの指導体制を続けていきたい。</p>	<p>生徒の進路情報の提供に対する評価が、3年生と比べて1、2年生が低い傾向にある。全学年が新体制となった今年度の進路の結果を踏まえ、今後はより具体的に詳しい進路情報をタイミング良く提供し、多様な進路希望を持った生徒に対応していくことが必要となる。 また、昨年同様に担任との連携を密にして、総合的な探究の時間やスタディーサポートの結果を利用して、進学・就職の意義をより深く理解させ、生徒の進路に向けての意欲を高める。また、課外授業、模擬試験の重要性を理解させ、模擬試験の事前指導、事後指導を行うに当たり、デジタルサービス等の活用方法を担任・生徒に周知し、充実した進路指導に努める。</p> <p>生徒数の増加に伴い、今後本校の進路希望はさらに多様化していくと思われる。就職希望の生徒は昨年と比べ倍増している。進学についても共通テスト受験を始め、総合型選抜や学校推薦型選抜で各種学校に進学する生徒が増えている。従来2年生の3学期に始めていた就職指導を2年2学期から始めることや、3年生対象に実施していた自衛隊・警察・消防の校内説明会を1、2年生も対象にするなど、早めの意識付けを検討する。 進学希望者に対する面接指導についても生徒や保護者から高い評価を得ているので、来年度も改善できるところは改善して引き続き行いたい。また、可能な限り、大学実施のオープンキャンパスや医療体験・ボランティア活動に積極的な参加を促し、志望動機や小論文・面接での内容の充実を図りたい。</p>
4 保健・ 安全管理	<p>具体的取組</p> <p>a 健康管理について生徒に啓発を行うとともに、その指導を充実させる。 目標:日常の健康管理についての啓発、指導に関する目標指数90%以上</p> <p>b 安全・美化に対する意識を高める指導を充実させる。 目標:安全で快適に生活することについての目標指数90%以上</p> <p>c 悩みなどの相談について適切に対応する。 目標:悩みなどの相談についての目標指数90%以上</p>	<p>健康管理についての啓発・指導が生徒自信の健康管理につながらなかったと回答する生徒が増えた。同項目でA+Bの割合が、昨年度より4.3ポイント減少した。ウイルスの変容と社会の感染に対する考え方の変化に伴い、本校でも昨年より多くの罹患者が発生したことも一つの要因であると考えられる。感染防止対策としてはこれまでと変える必要はないが、感染状況に応じて黙食時の巡回指導などを強化したり、行事の実施方法を変えたりするなどの臨機応変の対応をとする準備はしておくことが重要である。 安全・美化に関しては、新型コロナ感染状況を見ながら全校一斉の避難訓練を実施することができた。さらに、原子力災害時の退避訓練も行うなど、防災に関する訓練・啓蒙を行った。毎日の清掃は、全教職員が各清掃箇所での指導を継続し、学校美化に対する生徒の意識向上に努めた。生徒の96%が快適な環境で過ごしていると回答している。また、学期に1回ずつ教職員による安全点検を実施し、危険な箇所や修繕が必要な箇所をチェックしている。 心や身体に不安・悩みを抱えている生徒に対しては、相談室と保健室が連携をし、担任との情報交換も密にしながら問題の解決を探った。対応に満足しているとする回答がほとんどであったが、1年生で、困った時に対応してくれないとしてDを回答した生徒が7名おり、今後も注視する必要がある。</p>	<p>屋外でのマスク着用や、黙食に対し、徐々に緩和していこうとする実社会の動きにつられ、校内でもマスクをはずして会話をしたり、黙食時にもかかわらず、騒いだりする生徒が増えてきている。今後は国や県の指針に沿いながら、実効性のある感染対策を模索する必要がある。結果的に、学校生活上で生徒の罹患を最小限に防ぐことで、感染対策の実効性を生徒に自覚させることができると考える。 生徒数の増加に対し、清掃用具の不足が目立ち、清掃時間にしっかりと活動できる環境が整っていないので、計画的に清掃用具の整備が進められるように事務と連携していく。 クラスや部活動での人間関係に悩む生徒が急増しており、担任や部活動顧問との連携が今まで以上に重要となってきている。いじめアンケートや担任による個別面談の結果をうまく活用しながら、担任・学年会・相談室・保健室が緊密に情報交換を行い、できるだけ早い対応ができるような体制を強化していくことが急務である。</p>
5 図書指導	<p>具体的取組</p> <p>a 読書意欲を啓発し、図書館利用を促進する。 目標:①読書意欲の啓発に関する目標指数が80%以上 ②読書に親しむことに関する目標指数が70%以上</p>	<p>生徒の年間読書量について「私の読書量」は、1年間で「A(5冊以上)B(3～4冊)」と答えた生徒は昨年度62.2%から本年度52.3%と約10%低下し、目標の70%を下回った。しかし、学校図書館利用率は入館者1.2倍・貸出数2.6倍と大幅に増加している。このことから、多読ではなく本に親しむ傾向になっていると考えられる。また、教員による読書意欲の啓発は79.0%(目標の80%)と、昨年度とほぼ同じであった。 保護者の「お子さんは、広い意味での読書(新聞・書籍・電子書籍など)に親しんでいる。どちらかと言えば親しんでいる。」との回答は54.8%と、前年度の62.6%を下回ってはいるが、広報誌の図書だよりをハイブリット型で出すことにより、親子で読書に親しんでいる姿も見受けられるようになり、徐々に活字離れ解消へと繋がる兆しを見せている。</p>	<p>朝の読書を開始してから3年目に入り定着をみせつつも始業時間前であるため、徹底されていない様子も伺える。改善策として各クラスに20冊程度の書籍を配置し、年間6回の入れ替えを行い利用に供している。教員にも生徒にも概ね好評であるため、今後も続けていきたい。また、図書委員が中心となり、毎月様々なイベントを実施し、敷居の低い図書館を意識した活動を行うことにより、不読者数(本校の図書館資料を借りていない数)は18%と効果をあげている。特に毎日展示を変更したり、来館者への声かけや広報誌「図書だより」を月に2回以上発行したりすることで入館者や貸出数の増加に繋がっている。今後は、進路実現のための資料充実に加え、学年毎のオリエンテーションや個人に応じたレファレンスを丁寧に行うことで、より活性化を図りたい。</p>
6 地域に根ざ した学校づ くり	<p>具体的取組</p> <p>a 地域の文化や産業を題材とした探究活動を推進する。 目標:探究活動に関する目標指数70%以上</p> <p>b ホームページの充実を図り、保護者や地域への情報発信に努める。学校祭などで保護者等に学校を公開する。 目標:①ホームページの更新、内容に関する目標指数70%以上</p>	<p>地域の文化や産業を題材とした探究活動を推進していく活動について、今年度は新型コロナウィルスの影響も少なく、昨年度よりも地域との協働活動を充実させることができた。その結果、生徒が地域に興味を持った結果が(A+B)で68.6%と、昨年度よりも3.7ポイント上昇し、目標を達成できたが、保護者が生徒と地域の話題について話している結果は(A+B)で51.0%と、昨年度よりも11.1ポイント下がった。また教員が授業で地域教材を活用した結果が(A+B)で39.5%と、昨年よりも13.7ポイント下がった。これらの結果は、総合的な探究の時間に関しては成果を出すことができていたが、それ以外の授業では、地域との連携による活動が減少したことによるものである。</p> <p>個々の教員がホームページ更新に協力する割合は27.9%と低い。特定の教員がホームページ更新をしていることが要因と考えられる。ホームページ更新に関わる教員数を増やし、一人ひとりの教員がそれぞれ担当する分野の情報を気軽に発信できる環境を整えていく必要がある。 保護者の「学校はホームページの充実につとめていると思う。」について、よく当てはまる・やや当てはまるが、7割に近い数字で例年並みの結果である。学校行事や部活動、高校再編などの情報を逐次発信してきた成果であろう。また、「ホームページを見たことがないのでわからない」と回答している保護者が全校で8.4%と、前年度の13.5%から5.1ポイント減った。今後も保護者にホームページを見てもらえるような啓発活動を行いたい。</p>	<p>文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定が昨年度で終了したが、鯖江市および鯖江商工会議所との連携、仁愛大学との連携はこれまで以上に強くつながっており、学校全体で地域協働活動に取り組み、生徒たちの興味・関心を高める活動を企画・運営していく。 また教員が授業で地域教材を活用し、各教科での取組みとともに、教科を横断した授業を検討し、実施していく体制を強化していく。</p> <p>ホームページを見る機会を増やすために、学科・コースの特色ある活動や学校行事、部活動など興味のある情報を掲載し、更新頻度をさらに上げて保護者・地域の方がホームページから鯖江高校の情報を閲覧できるように努める。また、行事予定等の変更などをスピーディーにアップする。 学科コース、校務分掌、部活動など、できるだけ多くの情報を発信できるように、校内に働きかけていく。</p>